
台本にない演出

秋名

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

台本にない演出

【Nコード】

N 6 2 3 7 B

【作者名】

秋名

【あらすじ】

ある日、劇場の貸衣装屋としてバイトをする光達の劇場に8人の小さな劇団が予行練習をするためにやってきた。そこで起きる残酷な展開。しかし光達はあるものを見つけてしまったために・・・

第一話　プロローグ

第一話　プロローグ

夏休み初日。

AM 11:00

「今日からここで働くことになりました、神崎光子と言います。どうぞよろしくお願いします」

丁寧な挨拶をしているこの男。

この男こそが主人公である、神崎光^{かんざきひかる}である。

わざわざリクエストに答えて、かわいらしい声を裏声で出している。こんなに真面目に挨拶をしているのに、周りの人たちは笑いを堪えているようにも見える。

「ププププ・・・ダーハツハツ！もーダメだ！我慢できねえ！ア
ーッハツハツ！」

最初に笑い声を吹き出した男。

主人公の光の友達である、小日向健吾^{おひなたけんご}である。

「そんなに笑うなよな！。せっかく決まっと思ったのに」

「そうだよ！笑うなんてダメだよ！」

横から健吾のことを指差しながらしゃべっているのは、ひとつ上の先輩の、桜木綾香^{さくらぎあやか}先輩である。

この3人は、高校の時の生徒会の仲間であり、生徒会長に綾香先輩、副会長に光、副書記に健吾、という役割で当選した。生徒会の他の役員が、少しネクラすぎる人間が多かったために、3人だけが仲良くせざるを得ない状況下で、仲良くなった仲である。大学に進学した今でも、男女の差など関係なしに仲良くし続けている。

「で、でもよ！この格好って・・・アヒヤヒヤヒヤ！」

気色悪い笑い方だ。

「ごめんね。光君の服をおばさんが濡らしちゃったから・・・」

「いえ、いいんですよ。一回こーゆー服も着てみたかったから気にしないでください」

「そう言ってももらえるとおばさんも助かるわ」

「ブーツ！ハツハツハツ！」

「ちょっと誰かこいつを止めてくださーい」

綾香先輩が誰もいない空間に向かって言った。

「いい加減にしてくれよ・・・」

光は呟いた。実は光もこの格好は恥ずかしかったのだ。でも服がな
いなら仕方ないと思っ
て着たのである。そしてちゃんとそれらし
く挨拶もしたのに・・・

光は改めて自分よりも大きい鏡を見た。

そこに映っていたのは、ベースが黒で大きく白いフリフリのレース
のついたスカートを身につけ、上にも黒をベースとした白いフリフ
リのレースがついた服を着込み、その上からレースたつぷりのエプ
ロンを身につけ、「せっかくだから・・・」とおばさんがくれた白
いカチューシャつけた自分がいた。

つまり光は、メイド服なるものを着ているのである。

これは恥ずかしい・・・。

そしてなぜこんな服があるのか。なぜならここは演劇場の貸衣装屋
なのである。

ここの仕事は、この演劇場に来たお客さんに体験として着てもらっ
たり、実際に演劇をする人たちに実際に服を貸したりしている。

「って今思ってたんですけど、他にも服ってありますよね？」

おばさんに向かってズバリと聞いてみた。

「ギクリ・・・」

相変わらず古いリアクションだなあ・・・と光は思った。

「まったく。よく考えてみればここと貸衣装屋じゃないですか。
服なんていくらでもあるでしょーに」

「ギクギクリ・・・」

「はぁ・・・まあいいんですけどね。とりあえず他の服貸してくださいよ」

「ん・・・これでいいかい？」

おばさんが差し出したのは、男のウェイトレスが着るような蝶ネクタイの制服だった。

「あゝちょうどいいですね。それにします」

「じゃあ5000円ね」

と言って手を差し出すおばさん。

「は？」

「だから5000円だよ。貸し衣装屋だからねえ」

「じゃあこれは？」

光は自分の着ているメイド服を指差した。

「それはおばさんからのサービスだよ・・・ひっひっひっ」

「ホント負けず嫌いなところは変わりませんね」

「変わらないことはいいいことだろ？」

「それもそうですね」

「すいませーん！」

「ほらお客さんだよ。早く行ってあげな」

「この格好で行くんですか？」

「当たり前だよ！貸衣装を着ていない店員はダメなんだよ！」

「そんな怒らなくても・・・分かりましたよ。行きますよ」

ここはコスプレ屋じゃないだろ・・・

こののほほんとしている時、まだ誰もショーが始まることは知らなかった・・・

第一話　プロローグ　終

第一話〜プロローグ〜（後書き）

連載にしていく予定なので、興味を持った方は辛抱強く見守っていただきたいと思います。

コメントとかいただけると光栄です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6237b/>

台本にない演出

2010年10月12日04時47分発行